

イースト・ウェスト・センター第32回夏季人口学セミナー

アメリカのイースト・ウェスト・センターはアメリカ合衆国議会によって設立された教育研究機関であり、アジア・太平洋地域の主要な人口研究機関のひとつとして機能してきている。とりわけ、1961年からこれまで32回にわたって開催されてきた夏季人口学セミナーは総数で30カ国から1,800人もの参加者を集め、日本からも多くの人口学研究者が参加してきている。本年は、3つのワークショップ（セクシャリティとリプロダクティブヘルスのセンシティブな話題での研究方法論、アジア・太平洋地域の人口高齢化と社会保障、人口・保健分野の研究を政策立案者に伝える方法）が開催された。このうち人口高齢化についてのワークショップ（日程：2001年5月31日から6月30日）に今回参加してきた。

人口高齢化のワークショップでは、寿命と要介護状態や障害とが密接に関わっている概念である健康余命をはじめ、現在我が国でも重要になりつつある概念と指標や計算手法について様々な国の専門家を交えて解説と議論が行われた。また、実際のデータの分析や検討が連日夜遅くまで行われた。さらに、アメリカ、ドイツ、日本、スウェーデンなどの社会保障政策や公共政策論、また死亡と死ぬこと（Death and Dying）についての学際的な考察や介護ホーム訪問など、多岐にわたって高齢化とその影響について検討を行うセミナーであった。

（小松隆一記）